

EaseUS[®] Todo Backup マニュアル

Home / 無料版



もくじ

ご利用頂きありがとうございます	1
はじめに	1
ハードウェア要件	1
システム要件	1
対応しているファイルシステム	1
対応しているハードディスク	2
ライセンス認証	2
製品比較	4
メイン画面	6
バックアップ	7
システムバックアップ	7
ディスク/パーティションバックアップ	8
ファイルバックアップ	11
スマートバックアップ	13
メールバックアップ	14
定期バックアップ	15
スケジュール設定	16
バックアップ方法	18
イメージの保存設定	19
作成したバックアップを編集	20
バックアップオプション	20
クラウドにバックアップ	25
復元	26
システムの復元	26
ディスク/パーティションの復元	28
ファイルの復元	33
スマートバックアップの復元	34
メールの復元	36
参照して復元	36
個別ファイルの復元	37
システム移行	38
クローン	41
ハードディスクのクローン	41
パーティションのクローン	44

ツール	45
イメージをチェック	46
ブータブルディスクの作成	47
データ消去	50
Pre-OS を有効/無効にする	50
iSCSI イニシエーター	50
マウント/アンマウント	51
WinPE の特別ツール	52
Windows シェル	52
ドライバーマネージャー	52
ネットワークマネージャー	52
MBR の修理	52
パーティションのチェック	53
ログ	53
基本設定	54
サポート	55
免責	55

ご利用頂きありがとうございます

EaseUS Todo Backup をご利用いただきありがとうございます。本製品は家庭用 PC、ワークステーション、サーバー向けの総合データバックアップソフトとして世界中で広くご利用いただいています。OS、ドキュメント、写真、音楽その他重要なデータを効率的かつ安全にバックアップします。本製品が作成するイメージバックアップを使えば、信頼性の高いバックアップをおこなっていただくことができます。システムのクラッシュ、パーティションやディスクの破損、ウイルス感染、データ損傷などソフトに起因するほとんどの問題を迅速かつ容易に解決することができます。

はじめに

本製品の機能概要とライセンス認証方法について解説します。

本項をお読みいただくことで本製品に関する概要をご理解いただくことができます。

ハードウェア要件

500 MHz 以上のプロセッサー

1GB 以上の RAM、Windows 8/8.1 以前の場合は 2GB 以上

ハードディスクに 1GB 以上の空き領域

CD-R/RW、DVD-R/RW、DVD+R/RW もしくは DVD+R DL ドライブ

キーボード、マウスまたはその他のポインティングデバイス

システム要件

本製品が動作対応している OS は以下の通りです。

- ・ Windows XP®
- ・ Windows Vista®
- ・ Windows® 7
- ・ Windows® 8
- ・ Windows® 8.1
- ・ Windows® 10

対応しているファイルシステム

EaseUS Todo Backup が対応しているファイルシステムは次の通りです : FAT12、FAT16、

FAT32 および NTFS。

その他のファイルシステムは「**その他**」と表示されます。EaseUS Todo Backup ではその他のファイルシステムのバックアップやクローンにも対応していますが、セクタバイセクタによる対応となります。

対応しているハードディスク

IDE、EIDE、SATA、ESATA、ATA、SCSI、iSCSI、USB 1.1/2.0/3.0 の各ディスクおよびファイヤーワイヤーディスクに対応しています。本製品が対応しているディスク容量の上限は **16TB** です。

CD-R/RW、DVD-R/RW、DVD+R/RW、DVD+R DL へのバックアップにも対応しています。

また、ダイナミックディスク、MBR および GPT ディスクにも対応しています。

ライセンス認証

EaseUS Todo Backup トライアル版を初めて起動するとライセンスコード入力画面が表示されます。25 桁のライセンスコードを入力すると、製品版としてご利用いただけるようになります。



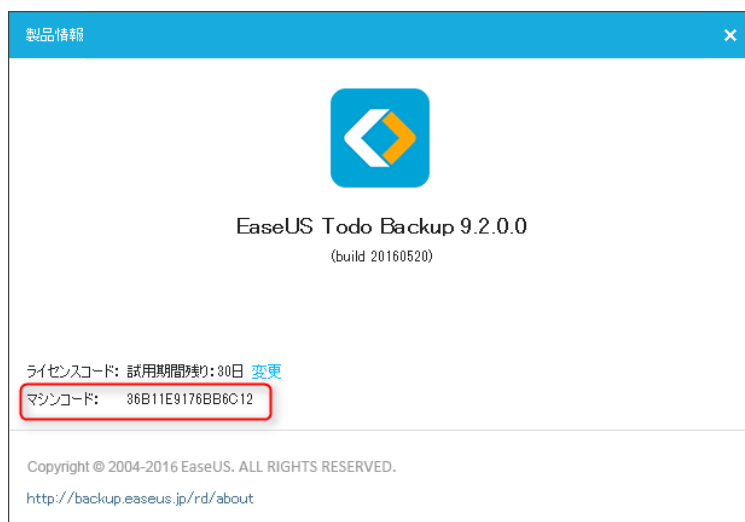
EaseUS Todo Backupのライセンス認証	
現在のライセンス: 無料版 今すぐライセンス購入	
ライセンスコード:	
ライセンス認証	後で

ライセンスコード入力をスキップした場合でも、メイン画面下部のリンクからライセンスコード入力画面を起動することができます。



オフライン認証

EaseUS Todo Backup はオフラインによるライセンス認証にも対応しています。
詳細は[こちら](#) を参照してください。



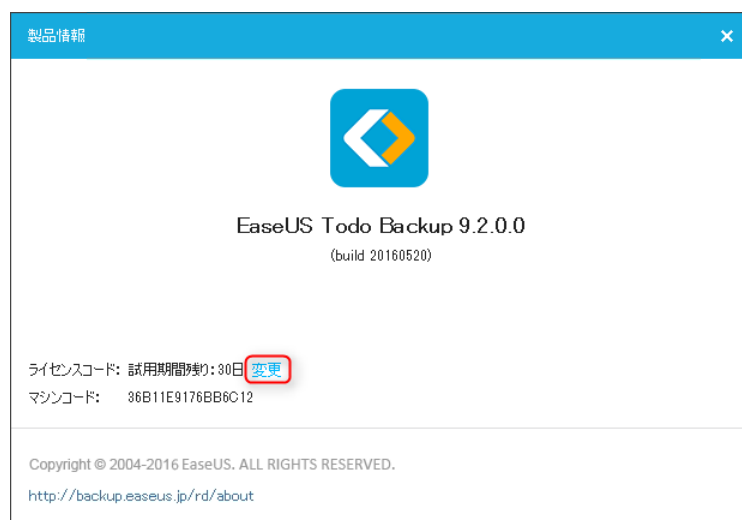
ヒント：

マシンコードとはハードウェア情報に基づいて本製品が生成した独自のコードで第三者によるライセンスのハッキングから保護するものです。

ライセンスコードの変更

ライセンス認証済みの PC で使用している EaseUS Todo Backup を別のライセンスコードで

ライセンス認証する場合、プログラム画面右上部にある  ボタンをクリックし、「製品情報」>「変更」を選択します。



注意：

ライセンスは同一製品に対して発行されたものをご使用ください。

製品比較

家庭ユーザー向けには、以下の 2 種類のライセンスが用意されています。

Free : 家庭ユーザー向けで PC1 台、個人利用の場合に限ってお使いいただけます。

Home : 家庭ユーザー向けの基本バージョンで、ダイナミックボリュームのバックアップ/クローン、システム移行、Outlook のバックアップなど、より多くの機能を使用できます。

ヒント：

Home 版はトライアル仕様となっており、30 日間は無料でご利用いただけます。Free 版は Home 版のライセンスコードで認証を行うことで、Home 版へとバージョンアップできます。

製品機能比較

	Free	Home
スマートバックアップ	○	○
ディスク/パーティション バックアップ	○	○
ファイルバックアップ	○	○
増分/差分バックアップ	○	○
ダイナミックボリュームの バックアップ/クローン		○
定期バックアップ	○	○
システムバックアップ	○	○
イメージの保存設定	○	○
システム移行		○
WinPE ブータブルディスク	○	○
Pre-OS の有効化	○	○
Windows 右クリック バックアップメニュー	○	○
Outlook のバックアップ		○
E-mail 通知、pre/post コマンド		○
除外ファイル		○
クラウドにバックアップ	○	○

メイン画面

メイン画面は3画面で構成されています。



バックアップ

利用可能な全てのバックアップオプションがここに表示されます。いずれかをクリックすれば該当するバックアップの作成を開始します。

個別の機能に関する詳細は、各自別項をご参照ください。

バックアップ管理と復元

旧バージョンのバックアップ管理ページをメイン画面に統合して表示できるようにし、全てのバックアップに関する操作が表示されるようになりました。プラン名、保存場所などバックアップに関する基本的な情報はこの画面上に表示されています。また、定期バックアップの「一時停止」もこの画面から行うことが可能です。

この画面から直接復元操作を開始することも可能です。各バックアップにある「復元」ボタンをクリックすると、設定ページに移動します。

「システム移行」と「参照して復元」については別項にて説明します。

その他

「クローン」、「ログ」および「ツール」の各機能を起動します。

バックアップ

重要データのコピーを取ることをバックアップと言い、PC にトラブルが発生した場合の復旧作業の際に利用します。従って、バックアップの主な目的とはシステムのクラッシュやデータ損失に備える有効な手段であると言えます。

本製品を利用するメリットは次の通りです：

1. 定期的なバックアップをおこなうことができます。（特別な操作をおこなうことなく自動的にバックアップをおこないます。）
2. 増分および差分バックアップにも対応しています。（最初に全てのバックアップを実行した後はバックアップにかかる時間やディスク領域を短縮・縮小することができます。）
3. 複数のバックアップデータを保存し、その中から最適なものを選んで復元することもできます。（例：同一ディスク上に 1 週間前、2 週間前および 3 週間前のデータをバックアップし、その中から何週間前の状態に復元するか決めることができます。）
4. バックアップファイルはマウントして検索することができます。（素早く見つける場合にはファイルをコピーすることが可能です。）

システムのイメージを元のドライブあるいは新しいドライブに復元し、容易にシステムを再び起動できるようにします。

ヒント：

迅速かつ確実なバックアップをおこなうため、全てのプログラムを終了してからバックアップ作業を実施してください。また、バックアップしたイメージの保存先はバックアップしたファイルとは異なるパーティションやディスクにしてください。

システムバックアップ

Windows OS は今日の PC には不可欠な OS ですが、システムクラッシュに備えて定期的にバックアップする必要があります。

EaseUS Todo Backup を使用すれば簡単に OS クラッシュに備えることができます。システム起動に必要なパーティションがバックアップ対象として自動選択されています。「ターゲット」、「プラン名」と「詳細」を設定するだけでバックアップを作成することができます。



基本設定：

ターゲット： フォルダのアイコンをクリックしてバックアップの保存先を指定します。

プラン名と説明： 検索を容易にするため、プラン名とプランに関する説明を設定します。

上級者向けバックアップ設定

これらを設定することで、フレキシブルな自動バックアッププランを作成することができます。

バックアップの「スケジュール設定」、「バックアップオプション」、「イメージの保存設定」を行うことができます。

各機能の詳細は別項にて解説しますが、これらの上級者向け設定を行わない場合でもシンプルで完全なバックアップイメージを作成することができます。

ディスク/パーティションバックアップ

一般的な PC には最低 1 台のハードディスクが搭載されています。新しい PC を購入した場合、ハードディスクに Windows OS、プログラムやファイルをインストール/保存するためのパーティションが設定されています。

1 台のハードディスクに 2 個のパーティションが設定されている場合、いずれかが C: パーティション (Windows パーティション) に設定されおり、もう一方はデータ保存パーティシ

ョンもしくはその他の目的のためのパーティションとなります。

「システムバックアップ」を使用すれば C: パーティションをバックアップすることは可能ですが、ハードディスク全体をバックアップすることはできません。
ハードディスク全体や異なるパーティションのバックアップを行う場合は「ディスク/パーティションバックアップ」を使用してください。



基本設定：

セクタ バイ セクタ バックアップ：選択したディスクやパーティションをセクタモードでバックアップします。全てのデータセクターと空きセクタがバックアップされます。

セクターレベルでのバックアップは高品質ですが、通常のバックアップよりデータ容量が大きく、バックアップデータの作成にも時間がかかります。

ターゲット：フォルダーのアイコンをクリックしてバックアップの保存先を指定します。

プラン名と説明：検索を容易にするため、プラン名とプランに関する説明を設定します。

上級者向けバックアップ設定

これらを設定することで、フレキシブルな自動バックアッププランを作成することができます。

バックアップの「スケジュール設定」、「バックアップオプション」、「イメージの保存設定」を行うことができます。

各機能の詳細は別項にて解説しますが、これらの上級者向け設定を行わない場合でもシンプルで完全なバックアップイメージを作成することができます。

ダイナミックボリュームバックアップ

ダイナミックボリュームとはダイナミックディスクの一部で、この種のハードディスクは LDM (Logical Disk Manager) データベースを使用してボリュームを管理します。基本ディスクと異なり、ダイナミックディスクは複数のボリュームに分割することができます。

ボリュームのデータ保存に際しては、ミラーボリュームにおけるデータ冗長性や RAID-5 ボリュームにおける耐障害性などボリュームの種類により様々な機能があります。

ボリュームのバックアップ手順も一般的なディスク/パーティションのバックアップ手順と同様です。異なる場所に設定されたダイナミックボリュームであっても本製品のディスクマップ上では単一ディスク上に表示されるというのが唯一の相違点です。

よくある質問：

1. 「システムバックアップ」と「ディスク/パーティションバックアップ」の違いは何ですか？

A: 「ディスク/パーティションバックアップ」では表示された全てのパーティションをバックアップ対象として選択することができます。

「システムバックアップ」ではシステム起動をつかさどるパーティションをバックアップターゲットとして自動選択し、これを変更することはできません。

詳細は[こちら](#)をご参照ください。(英語)

2. ネットワークドライブをバックアップできますか？

A: いいえ。EaseUS Todo Backup ではネットワークドライブ上のファイルやデータしかバックアップすることができません。

3. バックアップイメージはどこに保存したら良いでしょうか？

A: バックアップイメージはローカルのハードディスク、ネットワークドライブおよびその他の記憶媒体に保存することができます。

ただし、バックアップしたパーティションと同一のパーティション内には保存しないでください。

ファイルバックアップ

長期間に渡って PC を使用していくうちに、ドキュメント、写真、音楽、動画などを含む重要なデータが蓄積されます。これらを定期的にバックアップすることが推奨されます。ファイルバックアップ機能を使用すれば、予期せぬデータ損傷に備えることができます。



基本設定：

バックアップのファイルセキュリティ設定を保存：チェックを入れた場合、NTFS 暗号化ファイルのセキュリティ設定を保存します。

リパースポイントに関するコンテンツをすべて含める：チェックを入れた場合、全ての Windows リパースポイントもしくはリンクを含めてバックアップされます。ただし、イメージファイルの容量が大きくなる傾向があるため、必要な場合のみ有効にすることをお勧めします。

ターゲット：フォルダーのアイコンをクリックしてバックアップの保存先を指定します。

プラン名と説明：検索を容易にするため、プラン名とプランに関する説明を設定します。

上級者向けバックアップ設定：

これらを設定することで、フレキシブルな自動バックアッププランを作成することができます。

バックアップの「スケジュール設定」、「バックアップオプション」、「イメージの保存設定」

を行うことができます。

各機能の詳細は別項にて解説しますが、これらの上級者向け設定を行わない場合でもシンプルで完全なバックアップイメージを作成することができます。

バックアップするファイルの種類を特定する場合

フォルダー内にあるファイルのうち、種類を特定してバックアップを行う場合、画面右上のオプションから選択します。



「ユーザー定義」をクリックし、プルダウンメニュー内の「ファイルの種類」を選択します。一般的なファイル形式が6種類のカテゴリーに分類されます。

バックアップするカテゴリーを選択する、あるいは新しいカテゴリーを「追加」してください。

必ずバックアップするフォルダーを左パネルのツリー内にあるリストから選択してください。



上記画面ではデスクトップ上のドキュメントをバックアップするように設定されています。

ヒント：

Windows Explorer 上でファイルを右クリックし、「選択したファイルでスマートバックアップを作成」を選択してバックアップを開始することもできます。

スマートバックアップ

本製品のバージョン 7.0 以降に実装されているスマートバックアップを使用すれば、特定のファイルやフォルダーを 30 分おきに確認し、変更があった場合に新しいバックアップを取るように設定することができます。

注意：

ネットワーク上のファイルやフォルダーは本機能を使用してバックアップすることはできません。ディスク上のファイルやフォルダーのみバックアップすることができます。

スマートバックアップはこのような場合にご使用ください

本機能はデータベースを頻繁に更新したり、複数のユーザーとフォルダーを共有したりしている場合に有効です。1 日に複数個のバックアップファイルを生成しておくと、万一、不具合が発生した場合、いつでも直前の正常なファイルを復元したり、数日前に遡った時の状態に復元したりすることも可能です。

生成されるイメージの種類

本項目について理解するためには完全バックアップ、増分バックアップ、差分バックアップに関する知識が必要になります。

スマートバックアップの最初のバックアップイメージは完全バックアップで、7 日ごとに、その日の最初に全てのバックアップイメージが生成されます。翌日以降は 1 日の最初に差分イメージファイルを生成します。全ての有効な日に生成されるのは増分バックアップと呼ばれますが、PC の電源を切ったり、PC に不具合が生じたりした場合は無効な日と判断され、バックアップイメージは生成されません。

古いイメージファイルの取り扱い

ターゲット領域を確保するため、スマートバックアップは次のルールに従って古いイメージファイルを削除します。

1. 前日に作成された全ての増分ファイルは翌日最初のイメージファイルが生成された時点で消去されます。
2. 一度に保存できる差分イメージの上限は 6 個です。7 個目のファイルが生成された後、最初のファイルは削除されます。
3. 一度に保存できる完全イメージファイルの上限は 2 個です。

メールバックアップ

メールは今でも広く使用されており、また Microsoft Outlook が多くのユーザーにより使用されています。長期間に渡ってメールを使う中で、重要なメールが増えてくると考えられます。EaseUS Todo Backup を利用すれば、それらをバックアップして不測の事態に備えることができます。

ヒント:

本機能は *Windows Live Mail* および *Mozilla Thunderbird* には対応していません。



バックアップするコンテンツを指定します。メールボックス全体のほか個別フォルダー、連絡先、カレンダーをバックアップすることができます。

基本設定：

ターゲット：フォルダーのアイコンをクリックしてバックアップの保存先を指定します。

プラン名と説明：検索を容易にするため、プラン名とプランに関する説明を設定します。

上級者向けバックアップ設定

これらを設定することで、フレキシブルな自動バックアッププランを作成することができます。

バックアップの「スケジュール設定」、「バックアップオプション」、「イメージの保存設定」を行うことができます。

各機能の詳細は別項にて解説しますが、これらの上級者向け設定を行わない場合でもシンプルで完全なバックアップイメージを作成することができます。

定期バックアップ

バックアップ日時や間隔を設定した場合、定期的にバックアップを自動作成します。本機能を使用することで重要なデータを容易にバックアップし、他の作業により集中できるようになります。

スケジュール設定とイメージの保存設定方法について次に記載します。

スケジュール設定

種類

EaseUS Todo Backup のフルバージョンではバックアップ間隔を 5 種類からお選びいただけます。

バックアップの方法

種類:

- ☒ ワンタイムバックアップ
- ☐ 毎日
- ☐ 毎週
- ☐ 毎月
- ☐ イベント時

☒ タスクの作成と同時にバックアップを実行

☐ 日時を指定して実行: 0:00, 2015/12/14

バックアップ方法: 増分バックアップ

☐ 毎日初めに実行するバックアップ: 完全バックアップ

☒ バックアップを実行するためPCを起動

☒ スタートアップ時に実行できなかったバックアップをシャットダウン時に実行

ユーザー: パスワード:

✓ 適用 × キャンセル

ワンタイムバックアップ

バックアップを実行する日時を設定します。

毎日

バックアッププランを作成し、特定の時間あるいは間隔で毎日実行します。

時間：特定の時刻にバックアップをおこないます。時刻を追加する場合は⁺、削除する場合は⁻をクリックします。1日最大5回バックアップを取ることができます。

間隔：バックアップの開始時、完了時および間隔を設定します。開始時を午前6時、完了時を午前10時、間隔を2時間と設定した場合、6時、8時および10時にバックアップを実施します。

毎週

バックアップをおこなう特定の曜日と時刻を指定します。バックアップは毎週繰り返されます。

毎月

毎月特定の日にバックアップをおこないます。実施日は日付もしくは週から選択できます。バックアップを実施する時間も同時に設定します。

毎週：週別に実施時間を設定します。例) 毎月第1月曜にバックアップ実施。

開始：バックアップをおこなう日を選択します。

イベント時

EaseUS Todo Backup では以下4種類のイベント時にバックアップを実施することができます。

システム起動時：システム起動時にバックアップを実施。

シャットダウン：シャットダウン時にバックアップを実施 (Windows Vista 以降では現在利用できません)

ログオン時：Windows へログオンした時にバックアップを実施。

ログオフ時：Windows からログオフした時にバックアップを実施。

USB デバイス接続時：ターゲットに設定された USB デバイスが接続された時にバックアップを実施。

1日1度

有効にした場合、1日1度のみバックアップを実施します。

指定日

バックアップ実施日を指定します。無効にした場合は毎日バックアップをおこないます。

スタートアップ時に前回実施できなかったバックアップを実行

毎日、毎週、および毎月のバックアップを設定していたにもかかわらず、電源の不具合やPCのシャットダウンなどでバックアップを予定通り実施できなかった場合に次のPC起動時にバックアップを自動で実行します。

注意：

Microsoft Exchange では「イベント時」機能はご利用いただけません。

バックアップ方法

バックアップ方法には次の3種類があります：「完全バックアップ」、「増分バックアップ」、「差分バックアップ」。各バックアップについてスケジュールと実施方法を設定します。

増分または差分バックアップを選択した場合、最初のバックアップを「毎日」、「毎週」、「毎月」から選択することでバックアップイメージのチェーンを短縮することができます。

完全バックアップ、差分バックアップ、増分バックアップの違いは[こちら](#)をご参照ください。(英語)

注意:

ディスク/パーティションバックアップ、システムバックアップ、ファイルバックアップ以外のスケジュール設定を管理者権限でおこなった場合にはログオフ時、スリープ時あるいは休止時でもバックアップを実施できます。従って、スケジュールを正しく設定するためには管理者権限とパスワードが必要となります。

イメージの保存設定

長期間に渡ってバックアップを繰り返すと、バックアップの保存先ディスクの容量が圧迫されてしまいます。そのため、古いイメージファイルを削除して新しいバックアップイメージを記録できる領域を確保しておく必要があります。

EaseUS Todo Backup の「**イメージの保存設定**」を使えば、条件を設定して古いイメージファイルを削除することができます。

新しいバックアップ/スケジュールを設定する際にイメージの保存設定をクリックすると設定ウィンドウが起動します。

イメージの保存設定

☒ イメージの保存設定を有効化

☐ 保存期限: 1 日

☒ 保存する最新のイメージの数: 8 バックアップ

☒ 初めのイメージを削除しない

☐ イメージファイルを結合して保存
(複数のイメージがかさばらないようにできますが、バックアップに時間がかかります。)

✓ 適用 ✕ キャンセル

「**イメージの保存設定を有効化**」を有効化すると、以下のオプションが選択可能となります。古いイメージはオプション内で選択した期限、数、その他の条件に従って削除されます。

初めのイメージを削除しない

有効にした場合、最初に保存したイメージは保存するイメージの数には加算されず、またイメージの保存設定ルールに基づいて削除されることもなくなります。

イメージファイルを結合して保存

有効にした場合、イメージファイルを結合してディスク領域を節約します。ただし、バックアップ作業に時間がかかります。

詳細は[こちら](#)をご参照ください。(英語)

作成したバックアップを編集

作成済みのバックアップ/スケジュールを編集することができます。誤りの修正やルールの追加をおこなうことで、バックアップ操作をよりスムーズにおこなうことができますようになります。

作成されたバックアップに追加・変更できる以下のオプションはメイン画面に表示されず。

復元

ファイルを復元します。詳細は別項をご参照ください。

バックアップ

完全バックアップ、増分バックアップもしくは差分バックアップから手動で選択します。バックアップスケジュールを設定している場合、次の自動バックアップはスケジュール設定の内容に基づいて実施されます。

その他

プランを編集：ここで作成された全ての変更は現在のプランに対するスケジュールの有効化、バックアップオプションの変更およびイメージの保存設定の追加に適用されます。

「保存」をクリックして変更を反映してください。

イメージ管理：作成された全てのイメージおよびそれらの種類を一覧表示します。手動で削除することができます。

イメージをチェック：詳細は別項をご参照ください。

バックアップを削除：タスク情報のみ削除します。「イメージファイルの削除」にチェックを入れた場合は全てのイメージファイルを削除します。

P2V 変換：システムイメージを仮想ハードディスクファイルに変換し、VMware Workstation や MS Virtual PC で利用できるようにします。詳細は別項で説明します。

P2V 復元：システムバックアップイメージを仮想マシンに直接復元します。詳細は別項で説明します。

バックアップオプション

バックアップ開始前に設定可能なパラメーターや「**プランの編集**」から変更可能なパラメーターについて解説します。各パラメーターの詳細に関しては以下をお読みください。

領域

圧縮

バックアップファイルは圧縮することが可能です。矢印をスライドしてバックアッププランの圧縮率を決定してください。圧縮率が高いほどファイルのサイズが小さくなります。

The screenshot shows a window titled 'バックアップオプション' (Backup Options) with a sidebar on the left containing the following items: サイズ (Size), パスワード (Password), パフォーマンス (Performance), Eメール通知 (Email Notification), カスタムコマンド (Custom Command), オフサイトコピー (Offsite Copy), and 除外ファイル (Exclude Files). The 'サイズ' (Size) option is selected. The main area displays a slider for '圧縮' (Compression) with labels 'なし' (None), '標準' (Standard), '中' (Medium), and '高' (High). The slider is positioned at '標準'. Below the slider, the '分割' (Split) section has two radio buttons: '自動' (Automatic) which is selected, and '手動' (Manual). Next to '手動' is a dropdown menu showing 'CD--650' and a text field with the placeholder 'MB (サイズを指定してください。最小で50MBです。)' (MB (Please specify the size. Minimum is 50MB)). At the bottom of the window, there are three buttons: '初期設定に戻す' (Reset to Default Settings), '適用' (Apply), and 'キャンセル' (Cancel).

注意：

jpg、pdf、mp3 などとともに高圧縮率のファイルが含まれる場合には、バックアップイメージの圧縮率を「高」にした場合でも、イメージのサイズが大きく圧縮されない場合があります。

分割

大容量のイメージファイルを小さく分けて複数枚の DVD に保存すると言った場合のように、バックアップイメージを数個に分割することができます。

自動： 保存媒体のファイルシステムに基づいて最適なサイズに分割します。

手動： 既定のサイズから選択、あるいは分割サイズを直接入力します。最小サイズは 50MB です。

パスワード

バックアップファイルにパスワードを設定することができます。「パスワード設定」を有効にしてから設定します。

パスワードに設定できる文字数は 15 文字未満です。パスワード保護には AES256 アルゴリ

ズムを採用しています。

パスワードを設定したファイルを復元する場合、パスワードを入力するポップアップが表示されます。

パフォーマンス



優先度

Windows は複数のアプリケーションを同時に実行することができる OS ですが、優先度を設定することで、優先的に実行するタスクを設定できます。

ネットワーク転送速度

0 Mbps に設定した場合は速度制限なしとなり、利用可能な全ての出入力リソースが本製品に充当されます。

E-mail 通知

ログを直接確認する以外に、E-mail によってバックアッププランの結果を通知することができます。

SMTP やその他の設定値を入力すればバックアッププランの結果をメールで受け取ることができます。詳細は[こちら](#)を参照してください。(英語)

カスタムコマンド

バックアップ完了後に PC をシャットダウンするなど、バックアップの前後いずれかでコマンドを実行することができます。詳細は[こちら](#)を参照してください。（英語）

オフサイトコピー

EaseUS Todo Backup はハードディスクにバックアップイメージを保存する他、ローカルの FTP サーバー内にもバックアップを作成することができます。

バックアップオプション

サイズ

パスワード

パフォーマンス

Eメール通知

カスタムコマンド

オフサイトコピー

除外ファイル

☒ FTPコピーを有効化

FTPアドレス: ポート:

ユーザー名: ☐ 匿名

パスワード:

再試行: 回

☐ パッシュモード

i テープデバイスのイメージファイルはFTPに対応していません。

初期設定に戻す 適用 キャンセル

「FTP コピーを有効化」にチェックを入れ、以下の項目を入力してください。

基本設定：

FTP アドレス：ネットワークの FTP アドレスを入力します。

ポート：FTP 接続に使用するポート番号を入力します。

FTP ネットワークにおいて、使用されるポート番号はアプリケーションもしくは複合的な役割を果たす通信の終点をおこなうソフトウェアのプロセスに依存します。

ユーザー名とパスワード：FTP サーバーに接続する際のユーザー名とパスワードを入力します。

注意：

ネットワークサーバーがネットワーク上の全ユーザーと共有されている場合は「匿名」にチェックを入れてください。

追加設定：

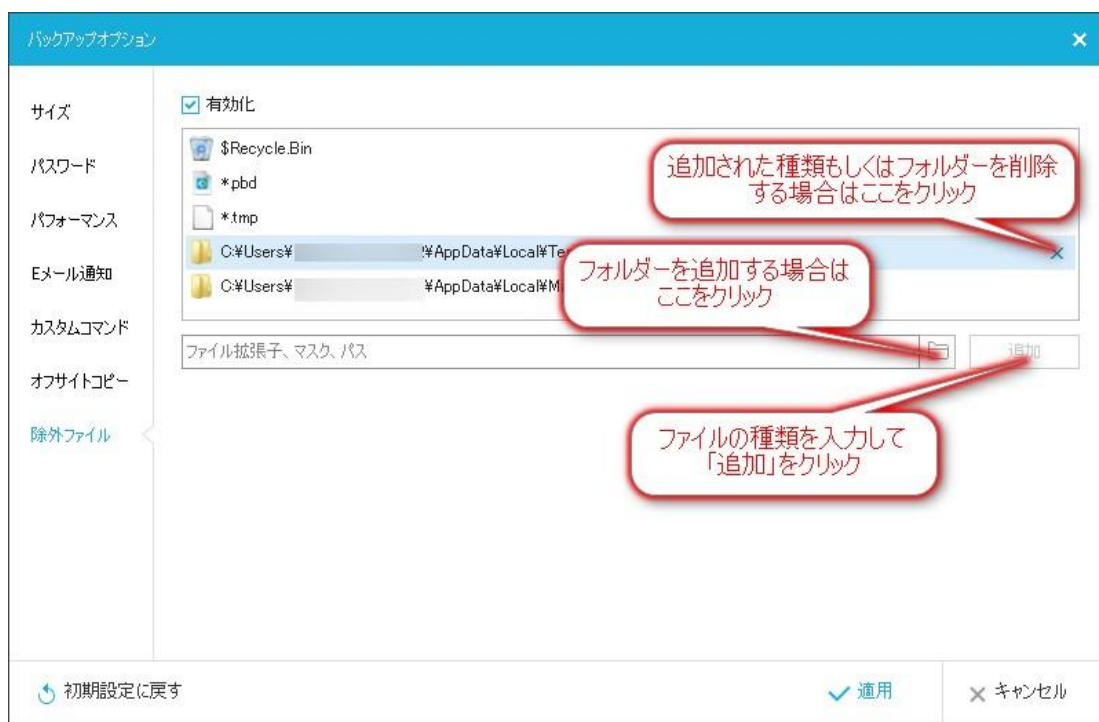
再試行：再試行する回数を設定します。何らかの理由で FTP サーバーに接続できなかった場合、指定した回数だけ再接続を試みます。

パッシブモード：FTP には「PORT」と「PASV」の 2 種類のモードがあります。PORT モードが初期設定されています。チェックを入れると PASV モードに変更されます。

テストパラメーター：設定された内容で FTP サーバーが接続を確立することができるかテストします。

除外ファイル

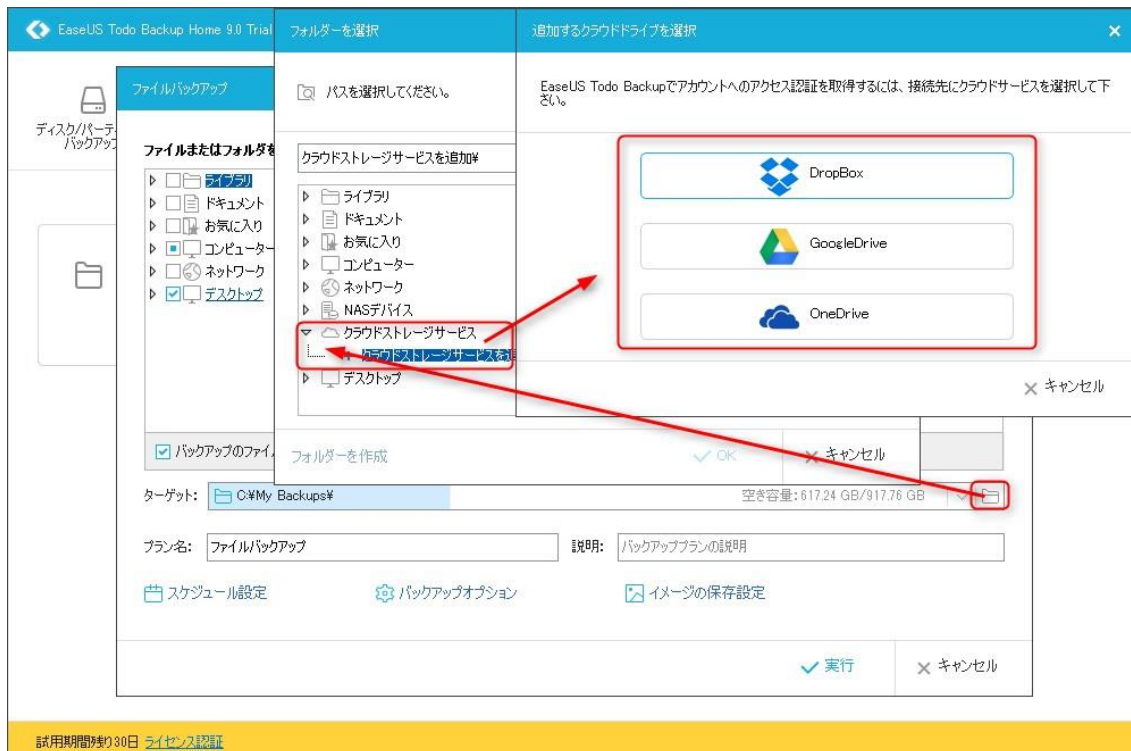
バックアップの必要がないファイルの種類やフォルダーを指定してバックアップ対象から除外します。



フォルダーのアイコンをクリック、あるいはファイルの種類を入力し、「追加」をクリックします。「X」をクリックすると追加されたファイルやフォルダーを削除します。

クラウドにバックアップ

EaseUS Todo Backup で作成した「ファイルバックアップ」、「スマートバックアップ」、「メールバックアップ」および「Exchange バックアップ」をクラウド上に保存することができます。現在対応しているクラウドは OneDrive、DropBox および Google ドライブです。



クラウドアカウントは使用するクラウドを選択後に表示されるウェブ画面で設定します。Google ドライブの場合、次のような画面が表示されます：

▼ EaseUS Todo Backup が次の許可をリクエストしています：



[許可]をクリックすると、このアプリと Google がそれぞれの利用規約とプライバシー ポリシーに従ってあなたの情報を利用することを許可することになります。このアカウント権限やその他のアカウント権限をいつでも変更できます。

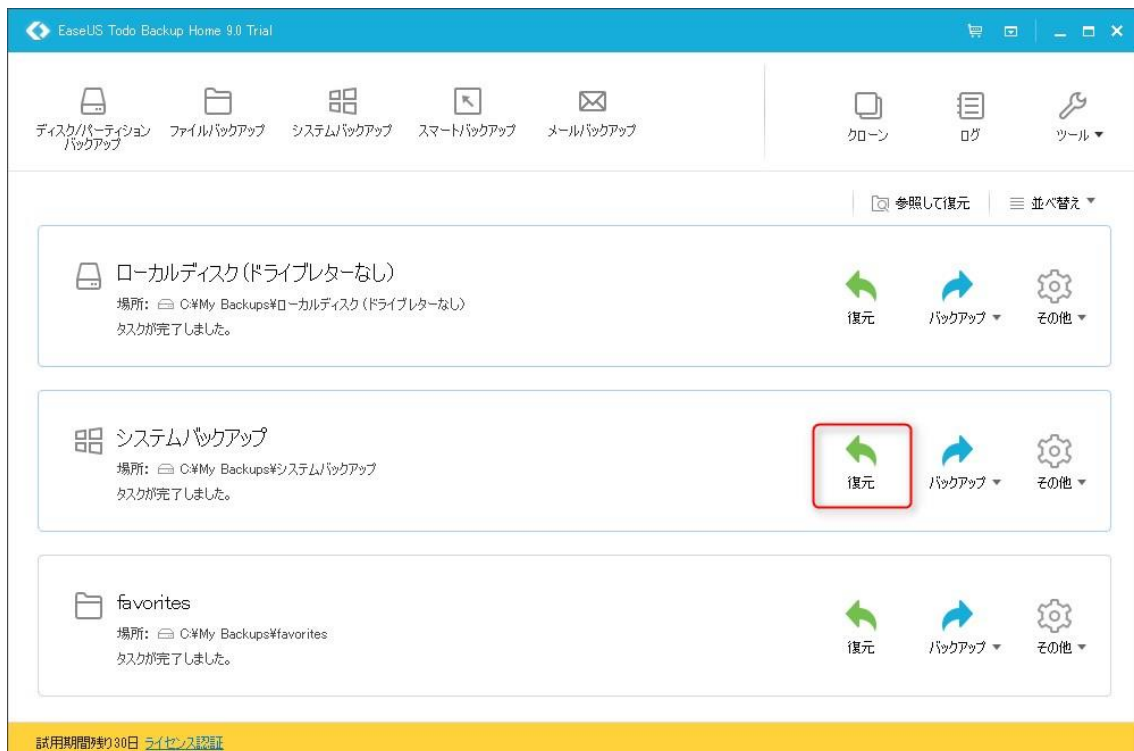


復元

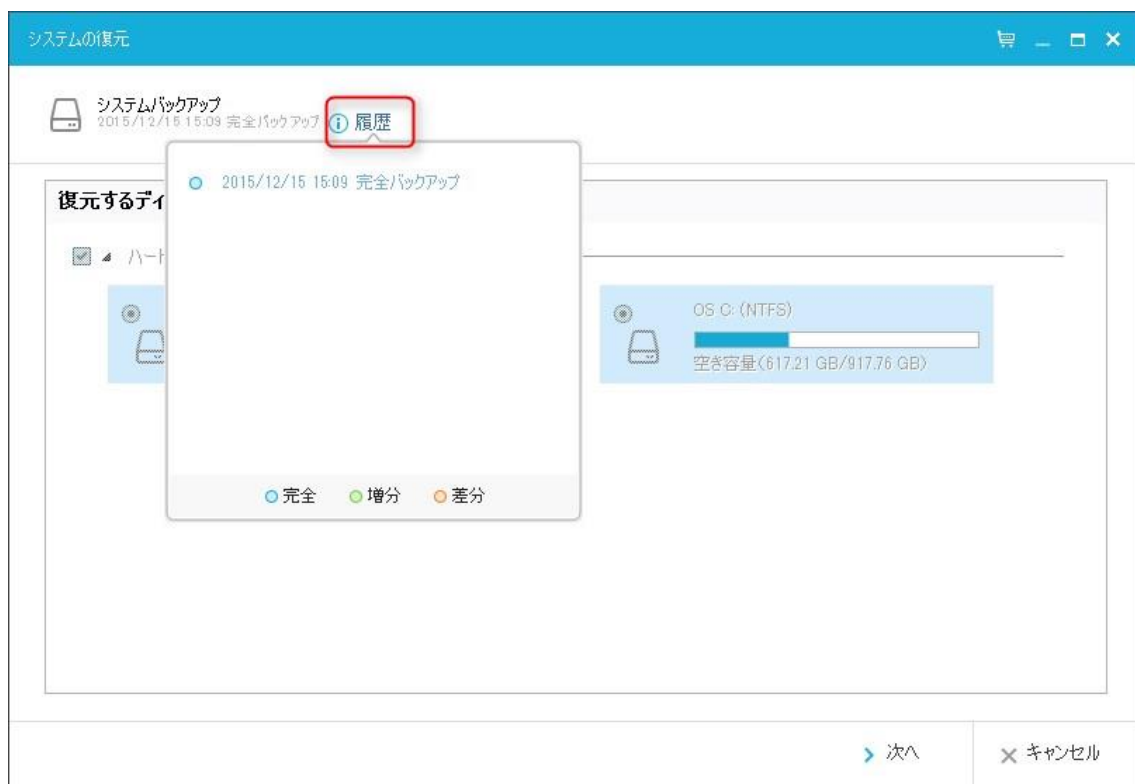
バックアップと反対のプロセスをおこなうことを復元と言います。圧縮されたバックアップファイルを解凍し、復元することでバックアップイメージが作成された時の PC の状態に戻します。PC を襲うウイルス感染、クラッシュ、パーティション損失、ファイル破損などの様々な悲劇にシンプルな方法で備えることができます。

システムの復元

システムバックアッププランには「復元」、「バックアップ」および「その他」の 3 種類のボタンがあります。「復元」ボタンをクリックすると作成したバックアップを使ってシステムを復元します。



バックアップイメージの「履歴」からバックアップに使用するものを選択し、内容を確認して「次へ」ボタンをクリックし、復元先となるターゲットを選択します。

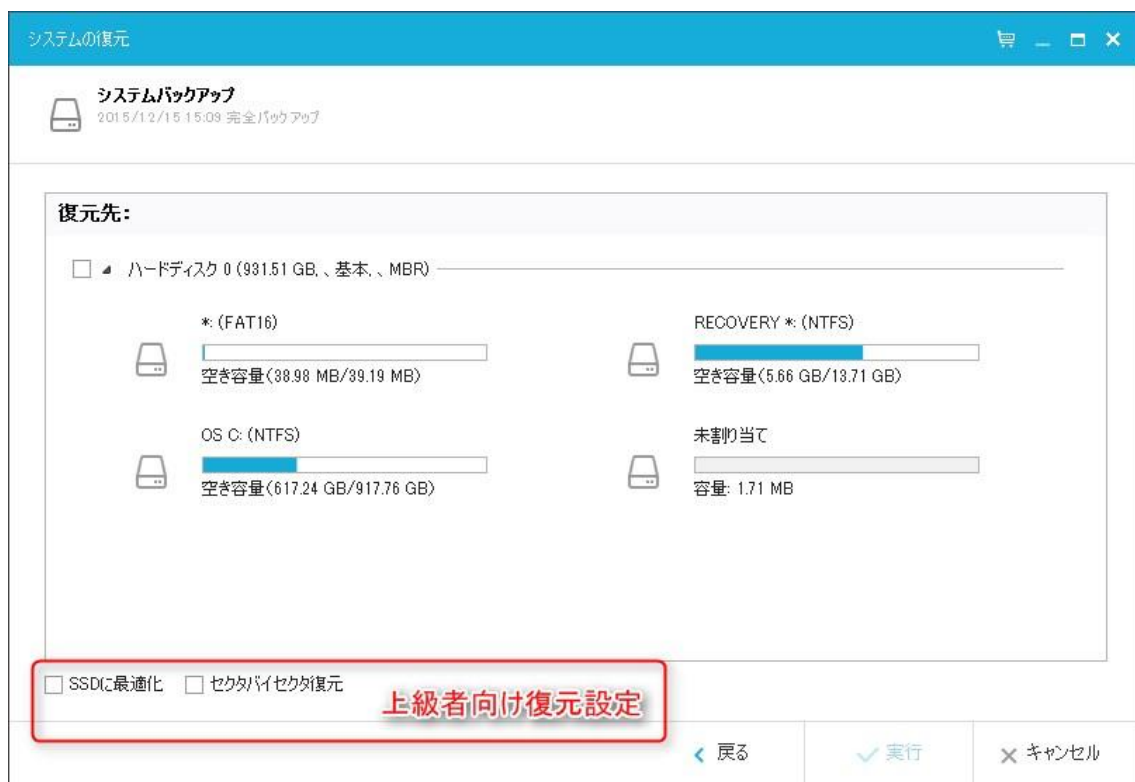


注意：

システムの復元を実施する場合は元のシステムが上書きされてしまいますので、特にご注意ください。エラーを起こした OS を復元する場合は **WinPE ブータブルディスク**あるいは **Pre-OS** が必要となります。

上級者向け復元設定

上級者向け設定を活用することで多くの場合、より安定的でスムーズにバックアップを復元できますが、これらの上級者向け設定を行わない場合でもシステムの完全な復元を行うことができます。



システム移行： Windows を含むイメージを別の PC に移動します。詳細は別途解説します。

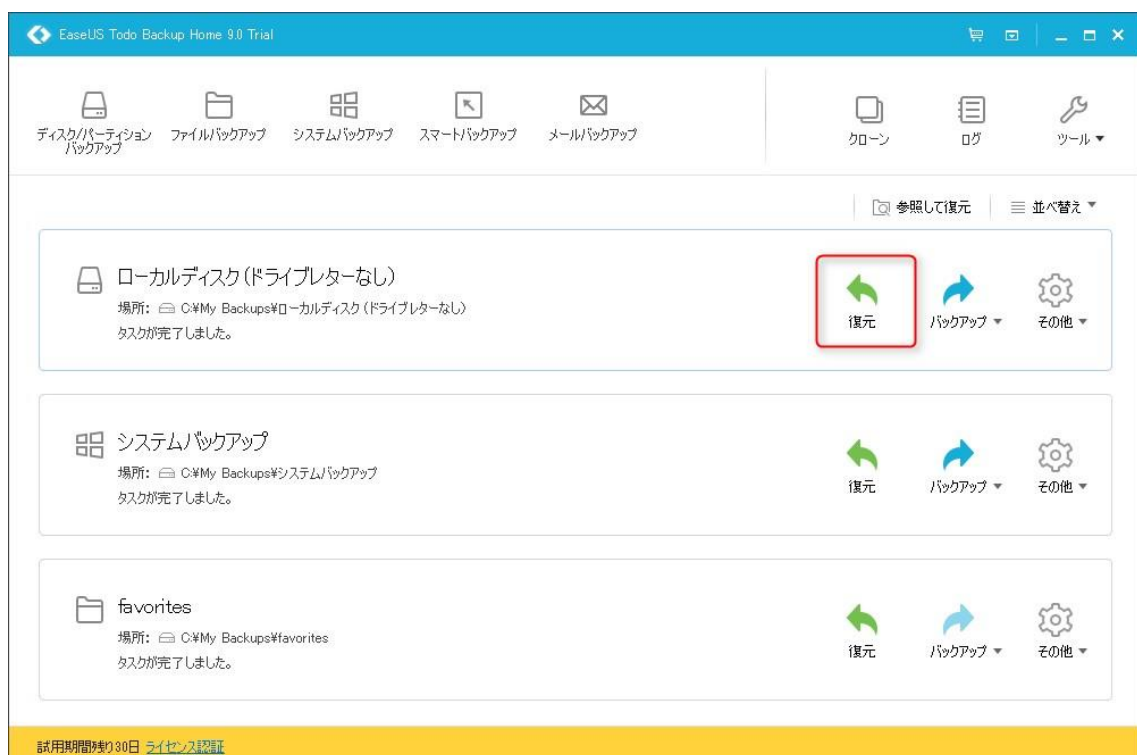
SSD に最適化： ターゲットディスクに SSD を設定した場合にチェックを入れると適切なセクタ配列でシステムを復元します。

セクタバイセクタ復元： イメージファイルの内容をセクタごとに復元します。元のパーティションもしくはハードディスク上にあった微細なエラーさえ復元するかのように元の状態に忠実に復元します。

復元後、元のセクタにファイルを再配置する場合に使うこともできます。

ディスク/パーティションの復元

ディスク/パーティションバックアップには「復元」、「バックアップ」および「その他」の 3 種類のボタンがあります。「復元」ボタンをクリックすると作成したバックアップを使って復元します。



「履歴」の中からバックアップに使用するものを選択し、内容を確認して「次へ」ボタンをクリックし、復元先となるターゲットを選択します。



注意：

ディスク/パーティション復元を行う場合、ターゲットディスク上のデータは上書きされていきます。適切な復元対象ディスクが選択されていることを確認してから作業してください。

上級者向け復元設定

上級者向け設定を活用することで多くの場合、より安定的でスムーズにバックアップを復元できますが、これらの上級者向け設定を行わない場合でもシステムの完全な復元を行うことができます。



システム移行： Windows を含むイメージを別の PC に移動します。詳細は別途解説します。

SSD に最適化： ターゲットディスクに SSD を設定した場合にチェックを入れると適切なセクタ配列でシステムを復元します。

セクタバイセクタ復元： イメージファイルの内容をセクタごとに復元します。元のパーティションもしくはハードディスク上にあった微細なエラーさえ復元するかのように元の状態に忠実に復元します。

復元後、元のセクタにファイルを再配置する場合に使うこともできます。

ディスク/パーティションモードとファイルモード

これらのオプションはシステムおよびファイルディスク/パーティションのバックアップ

イメージで利用することができます。ディスク/パーティションイメージから個別のファイルを復元することができます。



ディスク/パーティションモード

ディスク/パーティション全体のイメージを復元します。

ファイルモード

ディスク/パーティションバックアップイメージから個別のファイルやフォルダーを復元します。

復元場所を指定： 選択したファイルやフォルダーを復元する場所を指定します。

元の場所に復元： 選択したファイルやフォルダーを元の場所に復元します。

復元後のパーティションサイズを決定する

ターゲットディスクとソースディスクの容量がそれぞれ異なる場合、EaseUS Todo Backup は復元開始前にパーティションのサイズを自動調整します。また、手動で調整することも可能です。



1. 復元先ディスクを選択して「編集」ボタンをクリックします。
2. ディスク構造が表示されたら、パーティションをスライドして復元後のサイズを決定し、「実行」をクリックして復元します。

ダイナミックボリュームの復元

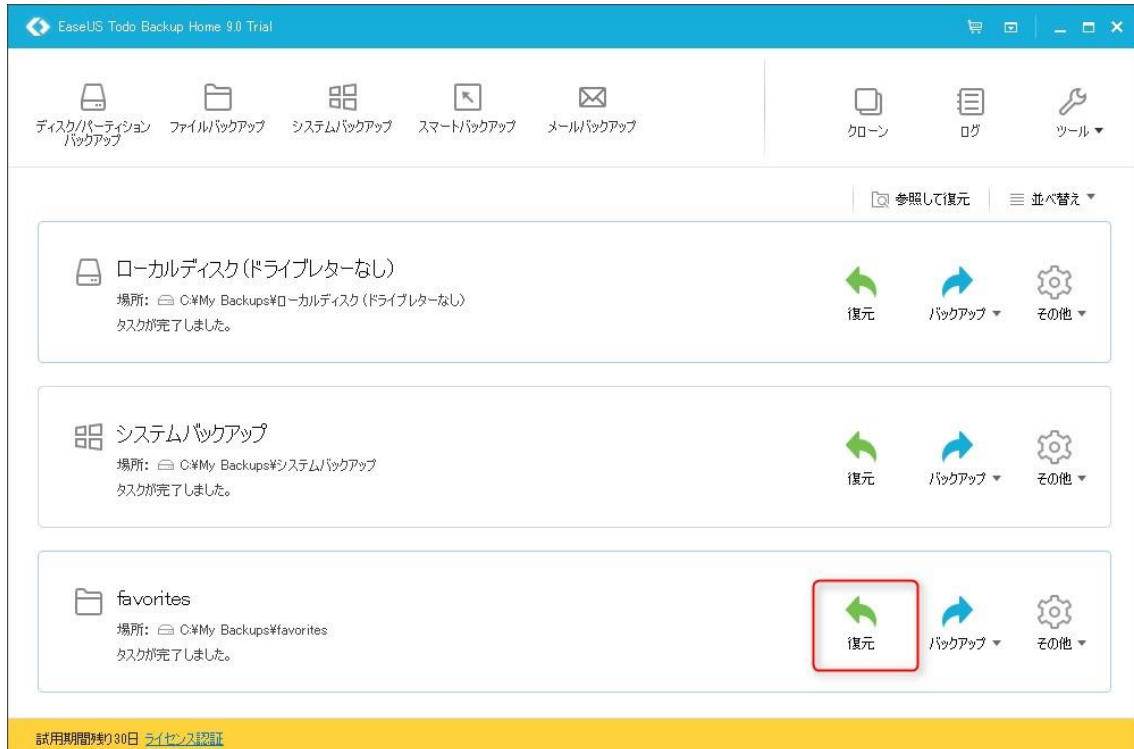
ダイナミックボリュームの復元手順は基本パーティションの復元とほぼ同様です。

注意：

バックアップボリュームに OS がインストールされている場合、基本ディスクに復元したボリュームはプライマリパーティションとなります。OS がインストールされていない場合は論理パーティションとなります。

ファイルの復元

ファイルバックアップには「復元」、「バックアップ」および「その他」の 3 種類のボタンがあります。「復元」ボタンをクリックすると作成したバックアップを使って復元します。



「履歴」の中からバックアップに使用するものを選択し、内容を確認して「次へ」ボタンをクリックし、復元先となるターゲットを選択します。

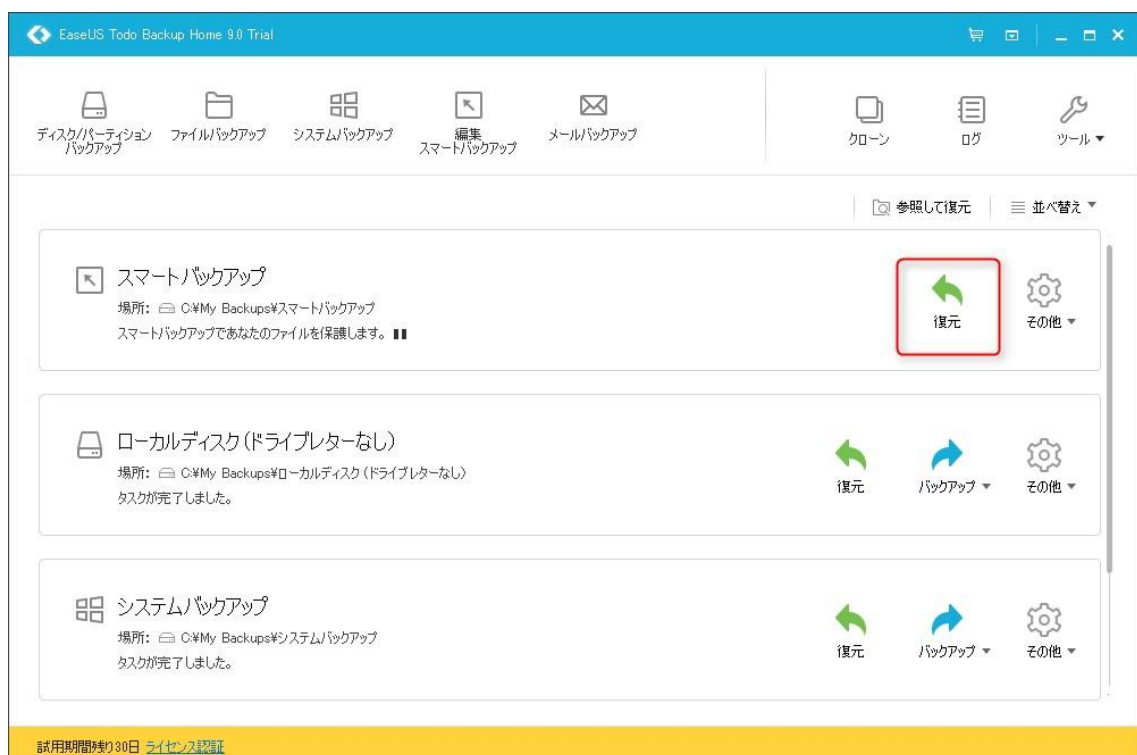


1. 復元可能なファイルが表示されます。次の 3 種類のモードで復元するファイルを選択します：**ファイル**、**種類**、**検索**
2. ファイルやフォルダーを元の位置、あるいは元の位置とは異なる場所に復元します。

既存のファイルに上書き：有効にした場合、元のファイルとフォルダーは復元後に上書きされます。

スマートバックアップの復元

スマートバックアップには「**復元**」、および「**その他**」の 2 種類のボタンがあります。「**復元**」ボタンをクリックすると作成したバックアップを使って復元します。



「履歴」の中からバックアップに使用するものを選択し、内容を確認して「次へ」ボタンをクリックし、復元先となるターゲットを選択します。



スマートバックアップの復元手順はファイル復元の場合と同一です。またイメージクリーンアップのルールにより、次の位置に復元することができます。

1. 同一日内に設定した全てのバックアップポイント
2. 最大 14 日前までの中で最初の状態（当日初めてのバックアップ時）

上の画面は「履歴」の選択を表示しています。

メールの復元

メールバックアップには「復元」、「バックアップ」および「その他」の 3 種類のボタンがあります。「復元」ボタンをクリックすると作成したバックアップを使って復元します。

「履歴」の中からバックアップに使用するものを選択します。復元先のメールボックス、フォルダー、ファイル内容を指定します。

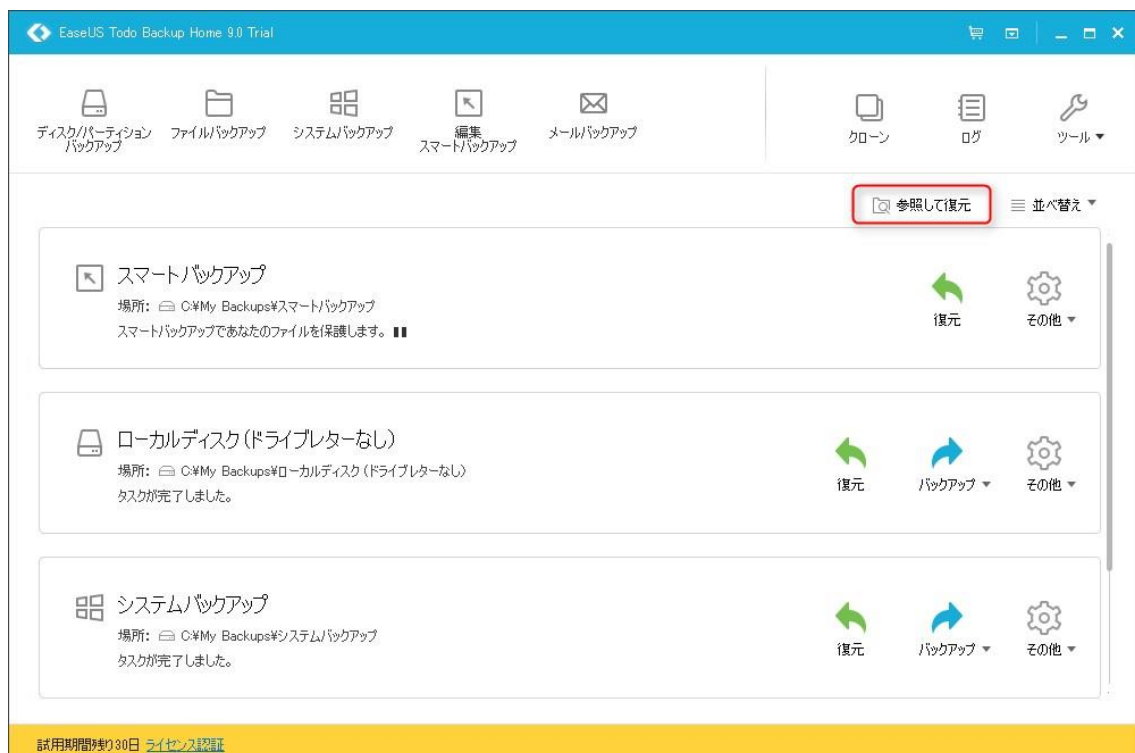
内容を確認してから「次へ」ボタンをクリックし、復元先となるターゲットを選択します。

注意：

復元後も既存のメールおよび連絡先は保持されます。

参照して復元

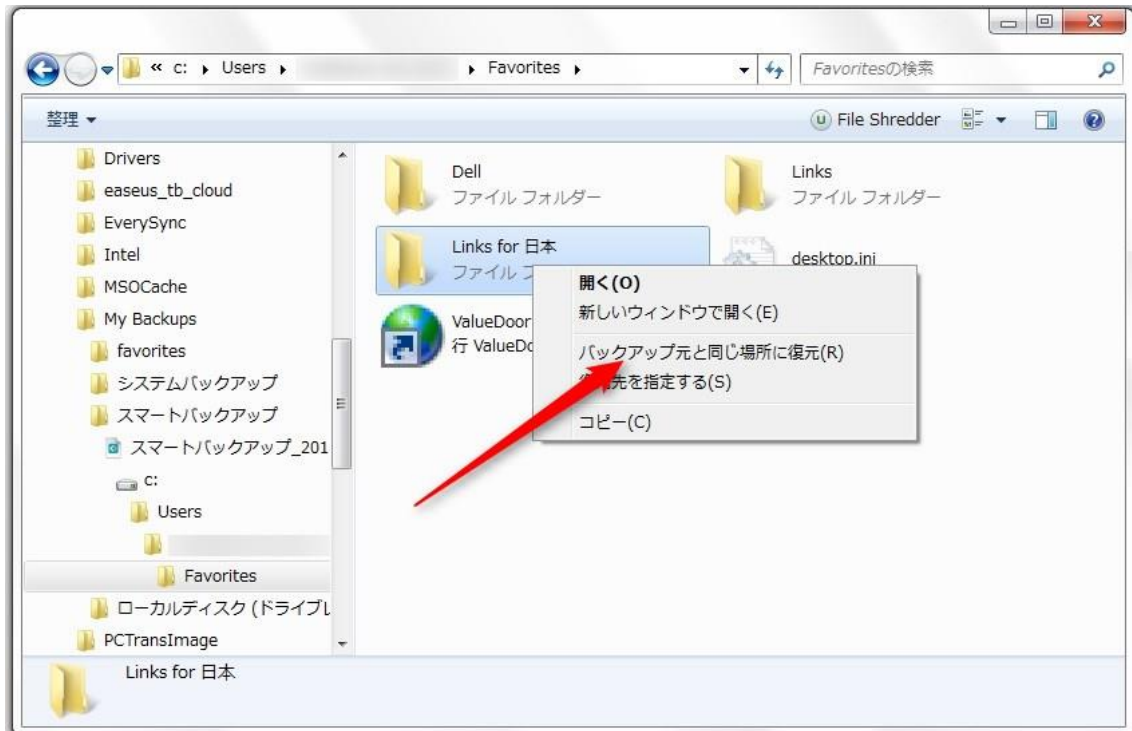
EaseUS Todo Backup を再インストールしたり、WinPE ブータブルディスクを使用してシステムを復元したりした場合、それまで作成したバックアップが失われてしまい、メイン画面にもバックアップが表示されなくなってしまうことがあります。そのような場合に「参照して復元」を利用します。



Windows のフォルダーからイメージを参照して復元に使用します。

個別ファイルの復元

EaseUS イメージファイルに直接アクセスすることができます。PBD ファイルをダブルクリックもしくは右クリックで展開してください。ターゲットファイルを確認し、右クリックしてメニューを開いたり、コピーしたり、復元したりすることができます。



システム移行

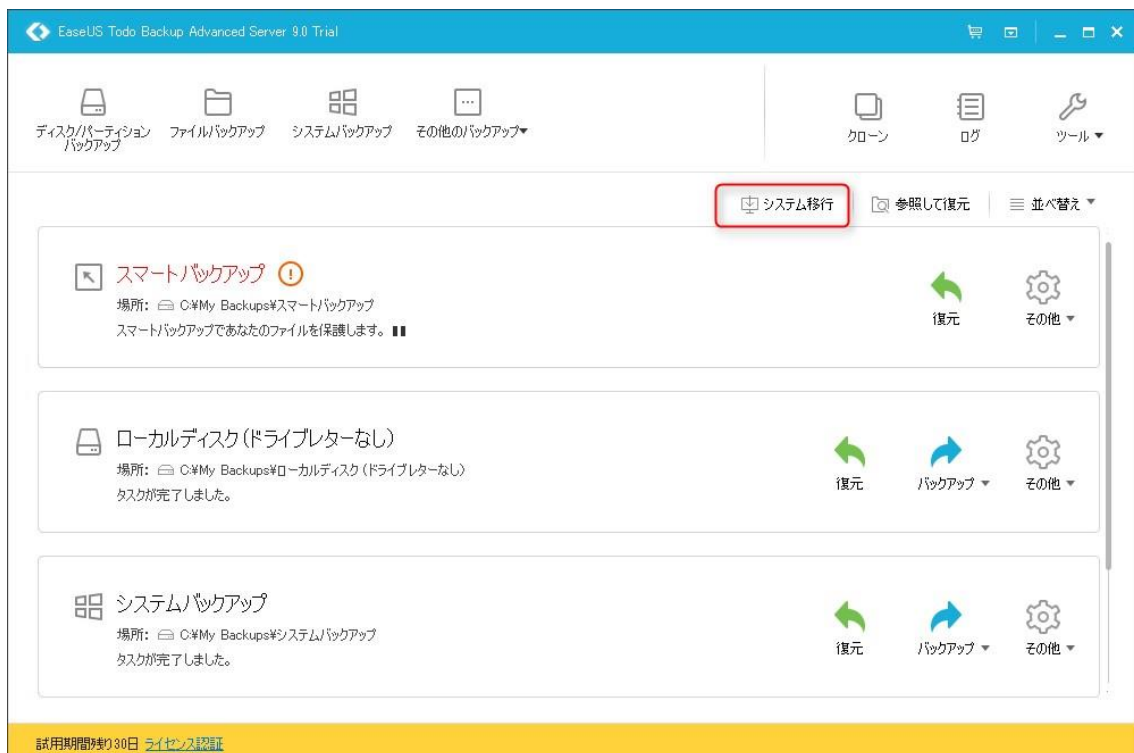
通常、ハードウェアの動作にはドライバーが必要であり、現在使用している PC のシステムを構成の異なる PC にそのまま移動することはできませんし、ドライバーなしでハードウェアを動作させることもできません。

EaseUS Todo Backup の「システム移行」を使用すれば、次のような場合によく発生するトラブルを容易に解決することができます。

1. 新しく高性能な PC にシステムを移動する場合。
2. ハードウェア更新後に古いシステムを復元、継続使用する場合。

注意：

本機能は Workstation 版以上のみでご利用いただけます。試用版で実施される場合は先に WinPE ブータブルディスクを手動で作成してください。



準備

以下のものをご準備ください。

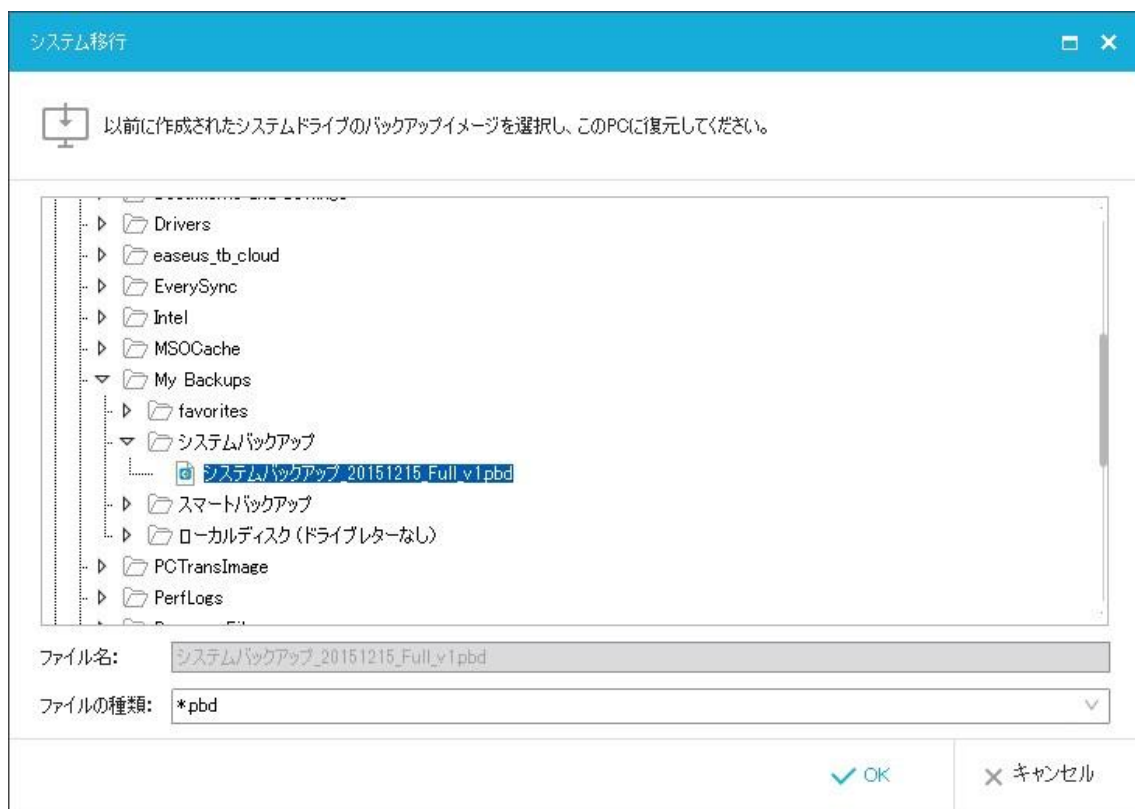
1. 「システムバックアップ」または「ディスク/パーティションバックアップ」で作成した有効なイメージファイル。
2. 転送先マシンに接続もしくは挿入できる「WinPE ブータブルディスク」または「WinPE ブータブルUSB」
3. 転送先マシン上に新しいハードウェア用の inf ドライバーファイル。

注意：

ディスク上に十分な領域が確保できる場合、WinPE ブータブルディスク上にシステムのイメージファイルや inf ドライバーファイルを保存することもできます。

手順

1. WinPE ブータブルディスクから転送先マシンを起動し、システムのイメージファイルが保存されているドライブが転送先マシンに接続されていることを確認します。
2. メイン画面内の「システム移行」をクリックします。
3. システムのイメージファイルを参照して選択します。



4. 復元先ドライブを選択します。
5. 復元が完了したらシステムが移転されたことを確認します。



注意：

RAID SCSI ドライブなど一部のドライブは WinPE 環境下ではデフォルト表示されません。また、ドライブを使用するには適切なドライバーが必要です。詳細は[こちら](#)をご参照ください。(英語)

6. システムの復元完了後、特定のハードウェアのドライバー（.inf ファイル）を要求するウィンドウが起動する場合があります。リスト表示されるハードウェア情報の中から適切なドライバーを探して追加すればシステム移行完了後に利用できるようになります。

クローン

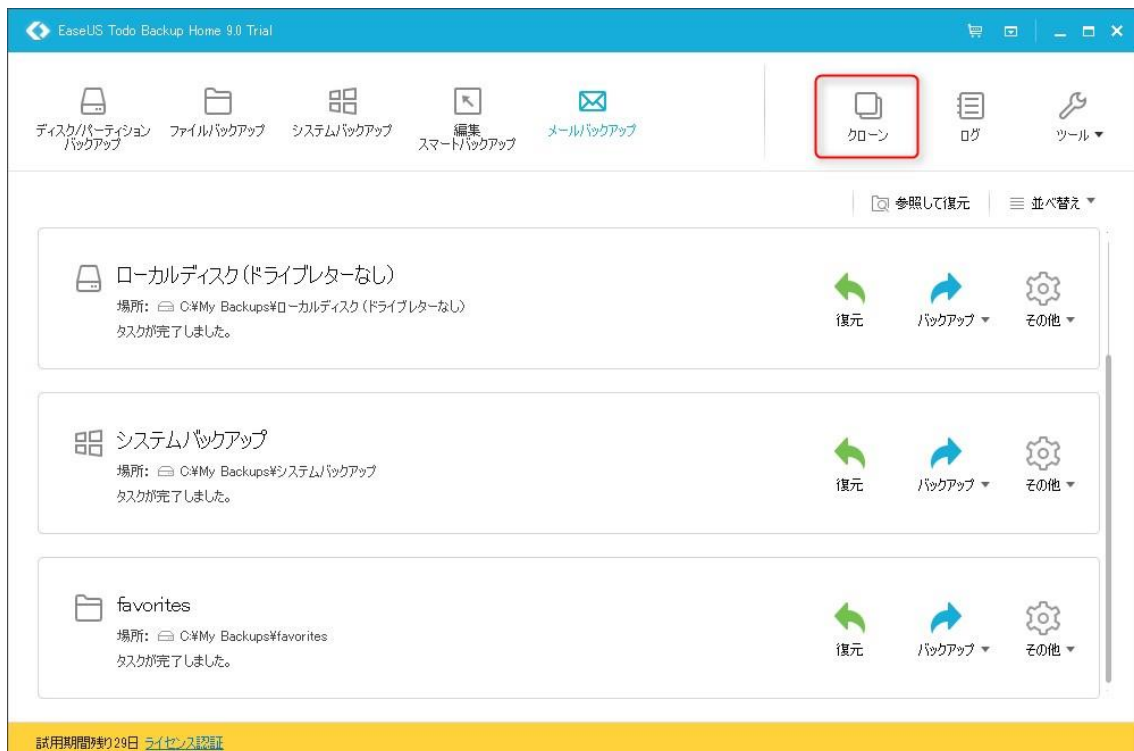
ドライブの不具合や容量不足のため、Windows を収録したハードドライブを交換する場合、「クローン」機能を使って容易にディスクのクローンを作成することができます。

ハードディスクのクローン

OS やプログラムを含む全てのデータを別のディスクにクローンします。ハードディスクを新しいものに交換する場合に特に便利な機能です。クローン先のディスクは元のディスクより容量の大きなものを使用してください。

手順

1. プログラム画面右上の「クローン」をクリックします。



2. ソースとなるハードディスクを選択して「次へ」をクリックします。



3. ターゲットとなるハードディスクを選択して「次へ」をクリックします。



ヒント：

「編集」をクリックすると「リカバリー後のレイアウト」が表示されます。パーティションをスライドしてクローン後のサイズを調整できます。

4. 内容とハードディスクのレイアウトを確認してから「実行」をクリックします。

上級者向けクローン設定

上級者向け設定を活用することで、より安定的でスムーズにクローンを作成できる場合がありますが、これらの上級者向け設定を行わない場合でもシステムの完全なクローンを行うことができます。

SSD に最適化：ターゲットディスクに SSD を設定した場合にチェックを入れると適切なセクタ配列でシステムを復元します。

セクタバイセクタクローン：ソースディスク/パーティションと全く同じ内容のターゲットディスク/パーティションを作成します。空のセクタも含めてクローンするため、全く同じサイズのクローンが作成されます。ディスククローンやパーティションクローンでセクタバイセクタクローンを選択した場合も同一の手順で作成されます。

注意：

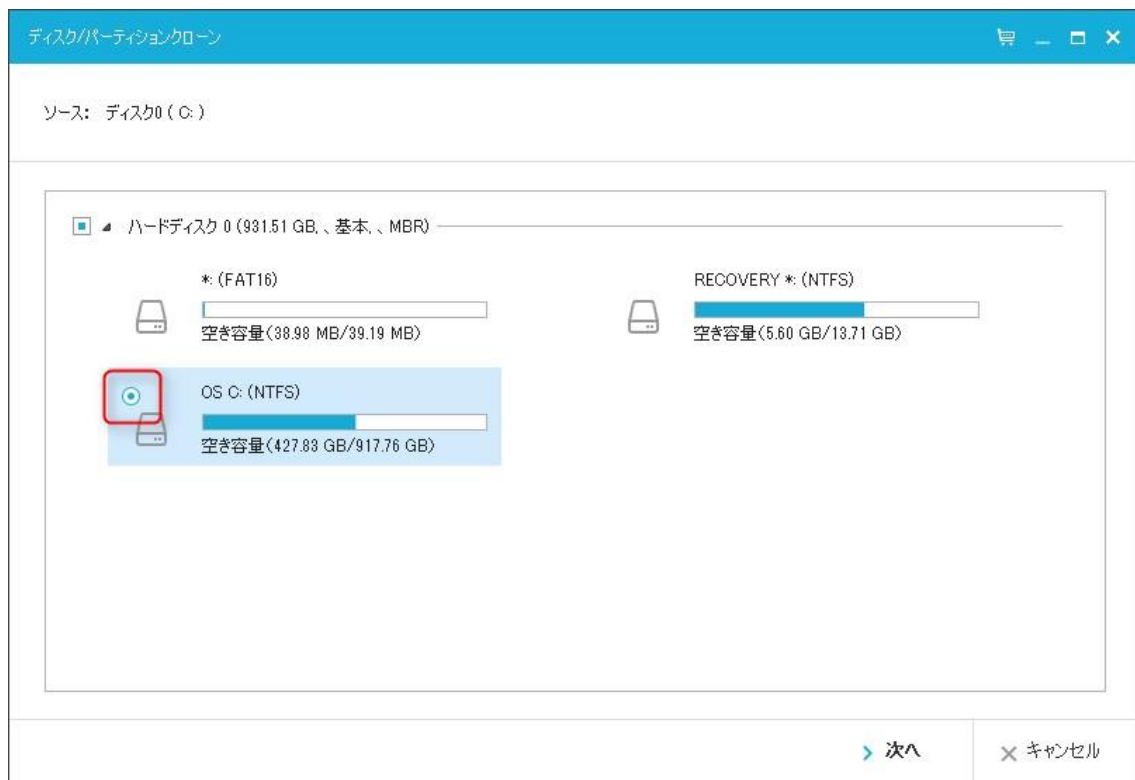
セクタバイセクタモードでクローンしたディスクやパーティションはサイズを調整することができません。

パーティションのクローン

バックアップ操作は大変便利でシステマチックな作業ですが、クローン作製もシンプルで直感的な作業でパーティションのコピーを作成します。

手順

1. ソースとなるパーティションを選択して「次へ」をクリックします。一度に1個のパーティションしかクローンすることができません。



2. クローンを作成するパーティションを選択します。



注意：

「**編集**」をクリックすると「**リカバリー後のレイアウト**」が表示されます。パーティションをスライドしてクローン後のサイズを調整できます。ターゲットパーティションから起動する場合は「**アクティブにする**」を有効にしてください。

ダイナミックディスク/ボリュームのクローン

EaseUS Todo Backup の「クローン」機能を利用すれば、ダイナミックディスクやダイナミックボリュームのクローンを作成することができます。異なるディスク上に設定されたダイナミックボリュームでも、同じダイナミックディスク上にリスト表示されます。

ツール

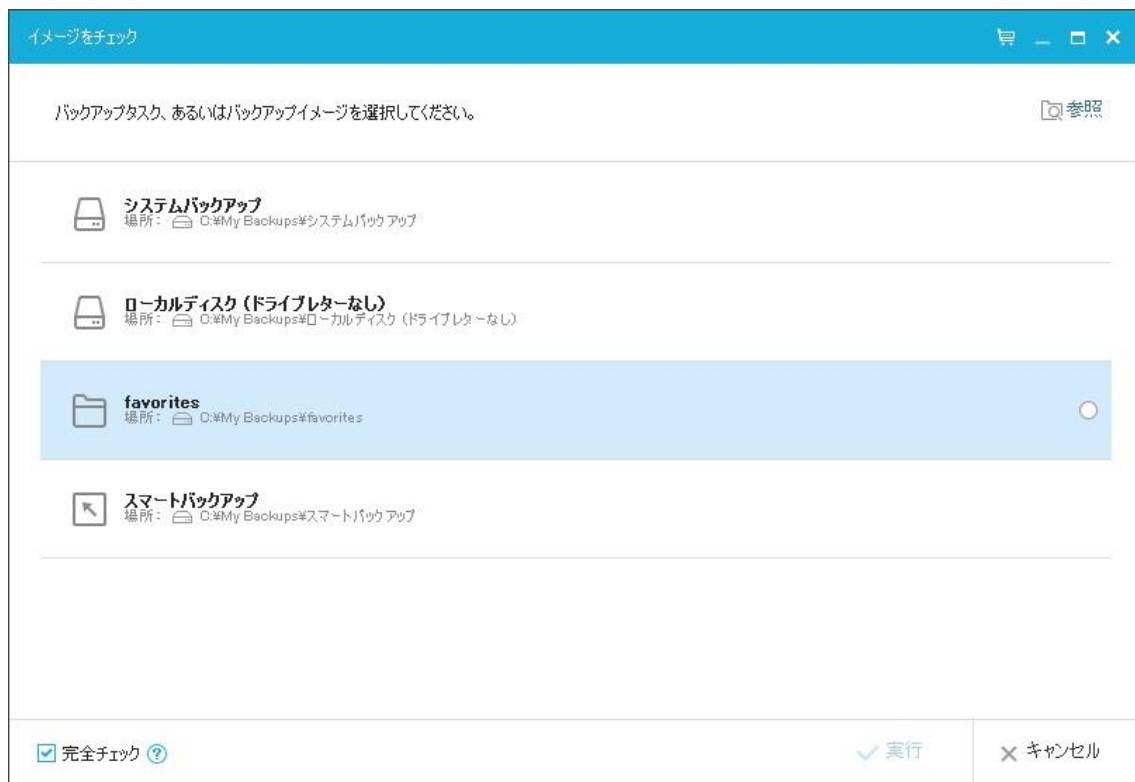
「ツール」メニュー内には、バックアップの効率化とフレキシビリティの向上に役立つ便利なオプションがあります。



イメージをチェック

イメージのチェックを使用してイメージファイルの有効性を確認できます。チェック中にエラーが確認された場合、そのイメージは破損しており、復元に使用できない場合があります。

「イメージをチェック」をクリックし、チェックするイメージファイルを選択、あるいはプログラム画面右上にある「参照」をクリックすれば、単一のイメージファイルをチェックすることができます。



注意：

バックアッププランに含まれる全てのイメージがチェックされます。従って多数のイメージがあるバックアッププランのチェックには時間がかかります。

ブータブルディスクの作成

EaseUS Todo Backup を使用してブータブル USB ディスク、CD あるいは DVD を作成することができます。これらは Windows が起動できなくなった場合に使用します。

ブータブルディスクの作成方法

1. 「ツール」 > 「ブータブルディスクの作成」をクリックします。
2. 次に、WinPE ブータブルディスクもしくはLinux ブータブルディスクのいずれかから作成するブータブルディスクの種類を選択します。

ブータブルディスクの作成

ブータブルディスクの種類:

☒ WinPEブータブルディスクの作成 ☒ 対応モード

☐ Linuxブータブルディスクの作成

ブータブルディスクの保存先:

☐ USB 1 (Generic Storage Device)

☐ CD/DVD E(DVDROM GH24NSB0)

☒ ISOの作成 C:\Users\user\Desktop\Emergencydisk.iso 参照

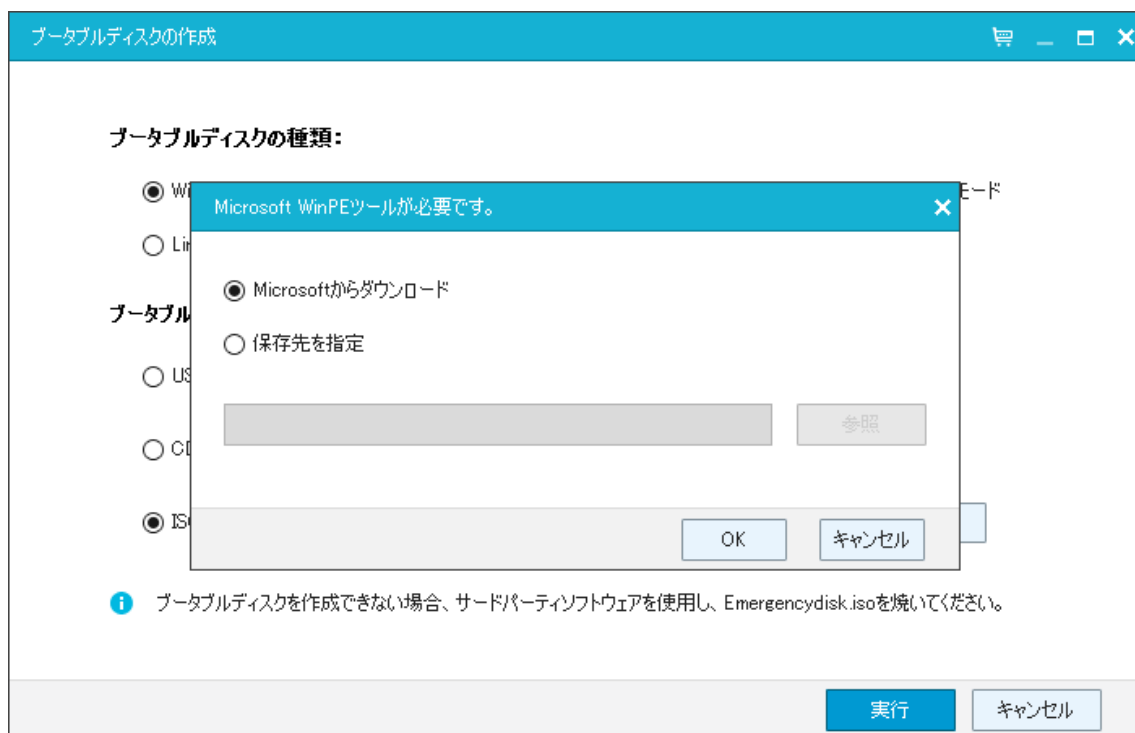
i ブータブルディスクを作成できない場合、サードパーティソフトウェアを使用し、Emergencydisk.isoを焼いてください。

実行 キャンセル

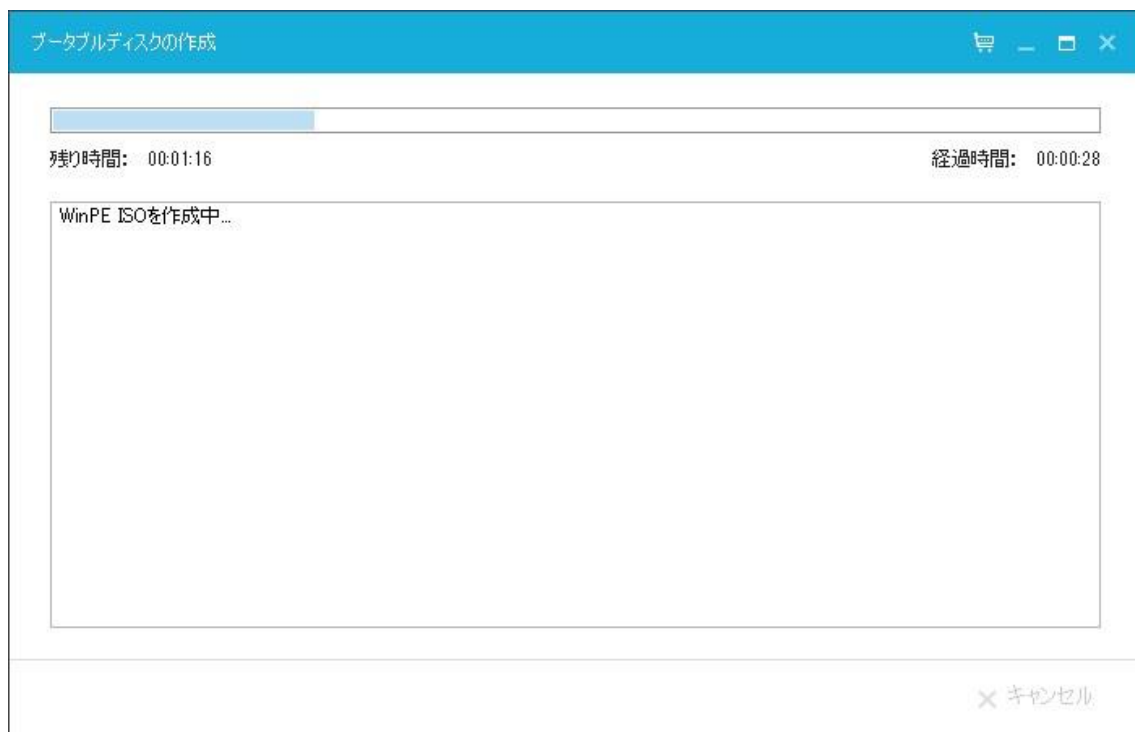
「対応モード」にチェックを入れると、現在の PC から必要なドライバーを取得し、WinPE ブータブルディスクに記録します。作成したブータブルディスクを使用してシステムを起動できない場合、「対応モード」にチェックを入れてディスクを再作成してください。

3. USB ディスクを使用してブータブル USB ディスクを作成する場合や CD/DVD を使用してブータブル CD/DVD を作成する場合は、該当する作成方法を選択して「実行」をクリックします。

4. 「対応モード」を初めて使用した場合に「マイクロソフトからダウンロード」もしくは「場所を指定する」のいずれかを選択する画面が表示されます。インターネット環境が利用できる場合はマイクロソフトから WinPE コンポーネントをダウンロードすることを推奨します。



「対応モード」未選択時は「実行」ボタンをクリック直後からブータブルディスクの作成が開始されます。



注意:

WinPE ブータブルディスクとLinux ブータブルディスクに関する詳細は[こちら](#)を参照してください。(英語)

WinPE ブータブルディスクに関する情報 (英語) :

WinPE 環境下でドライブが表示されない

WinPE 環境下でネットワークに接続できない

データ消去

ディスクもしくはパーティション上のデータを完全に消去します。「削除回数」を指定することができます。この操作は一旦実行すると取り消すことはできません、データは完全に失われてしまうので特に注意してください。

Pre-OS を有効/無効にする

Pre-OS は、予期せぬ不具合でシステムが起動できなくなった場合に WinPE ブータブルディスクの代わりに使用することができます。

Pre-OS の有効/無効の切り替えをおこないます。

ボタンの表示は Pre-OS の現在の状態に依存します。Pre-OS が有効になっている場合、ボタンの表示は Pre-OS を無効化となります。

Pre-OS が有効化されると PC 起動時に EaseUS ブートメニューが立ち上がります。選択後に Windows へのログイン画面ではなく、EaseUS Todo Backup に入ることができます。

EaseUS Todo Backup のエディションによって 2 種類の Pre-OS 環境があります。

Linux Pre-OS

全ての Linux ベースのトライアル版向けで、「復元」と「クローン」の 2 種類の基本的なオプションのみ選択可能です。

Windows Pre-OS

WinPE ブータブルディスク作成後、Linux Pre-OS は Windows Pre-OS に変換されます。ほぼ全ての機能が使用できるようになります。

iSCSI イニシエーター

iSCSI デバイスを接続、構成します。

2 種類の接続モードがあります。

クイック接続

「ターゲット」タブの「クイック接続」テキストボックス内にターゲットデバイスの名称または IP アドレスを入力します。続いて「クイック接続」をクリックします。

アドバンスド接続

1. 「ディスクバリー」タブをクリックします。
2. 「ポータルを検索」をクリックしてターゲットポータルを追加します。「IP アドレス」または「名前」を入力して接続します。

接続が確立されると *iSCSI* ドライブをローカルのハードドライブのようにバックアップしたり復元したりすることができます。

マウント/アンマウント

マウント機能を使ってディスク/パーティションイメージもしくはシステムイメージ（*.PBD file）内のファイルやフォルダーを参照/確認することができます。全てのイメージを復元することなくマウントされたドライブから必要なファイルを直接コピーすることができます。

本機能を使用して作成したイメージの有効性を確認することもできます。



1. 「ツール」>「マウント/アンマウント」を選択すると、利用できるバックアップが一覧表示されます。
 2. 使用するバックアップを選択し、「次へ」をクリックします。
 3. 「ソース」を選択し、「次へ」をクリックしてマウントを実行します。
- イメージをアンマウントする場合は「マウントされたディスクの管理」をクリックします。

ヒント：

本機能は「ファイルバックアップ」には対応していません。

暗号化されたアーカイブをマウントする場合はパスワードを入力してください。

完全なアクセス権を維持するため、イメージの作成とそのマウントは同一の Windows アカウント内で実施してください。

マウントされたドライバーはコンピューター再起動後に自動消去されます。

WinPE の特別ツール

WinPE と Pre-OS 環境ではスムーズに復元をおこなえるようにするため、「ツール」内のオプションのいくつかが新しいものと入れ替わります。

Windows シェル

MS-DOS コマンドボックスを起動して異なるコマンドを入力してバックアップの効率や安全性を向上させることができます。例えば、パーティションのバックアップ前に CHKDSK でエラーチェック、Drvload でハードウェアを追加、DISKPART でパーティションの作成といった操作ができます。

Windows のコマンドに関する知見のある方向けの機能です。

ドライバーマネージャー

WinPE および Pre-OS 内にインストールされたドライバーがないと認識されない RAID、SCSI およびネットワークカードがあります。このオプションを使用すればそのようなハードウェア向けにドライバーを追加でき、スムーズに復元作業をおこなえます。

ネットワークマネージャー

ネットワークアクセスパラメータの管理もしくは設定の際に共有フォルダーの読み込みに失敗した場合に使用するオプションです。

ネットワークドライブのマップ： バックアップあるいは復元するドライブをローカルドライブとしてマップします。

ネットワークドライブの編集： マップされたドライブのパラメーターを変更します。

ネットワークドライブの切断：「ネットワークドライブのマップ」で作成したマップされたドライブを消去します。

IP 設定： IP パラメーターを構成します。

MBR の修理

「MBR の修理」を使用して MBR セクタに新しいブート情報を記入することでブート時の問題を解決できる場合があります

WinPE Pre-OS または WinPE ブータブル環境内の「ツール」から「MBR の修理」をクリックして起動し、修理するディスクを選択して「実行」をクリックします。

パーティションのチェック

パーティションに論理エラーがある場合、本製品を使ったバックアップができないことがあります。そのため、パーティションのエラーをチェックし、修復してからバックアップする必要があります。この機能は WinPE Pre-OS もしくは WinPE ブータブル環境のみで利用することができます。「ツール」>「パーティションのチェック」を選択し、「次へ」をクリックして開始してください。

ログ

「ログ」をクリックすると、保存されている全てのバックアップ操作と結果が表示されます。失敗した操作は赤で示されます。「詳細」をクリックして内容を確認できます。

ログ		
	スマートバックアップ 前回の操作: 2015/12/18 16:51:54 - 完了	詳細
	ローカルディスク (ドライブレターなし) 前回の操作: 2015/12/15 17:43:35 - 完了	詳細
	システムバックアップ 前回の操作: 2015/12/15 17:32:57 - 完了	詳細
	favorites 前回の操作: 2015/12/15 10:14:18 - 完了	詳細
すべて出力		すべてクリア
		

以下の操作が実行可能です：

「すべて出力」：全てのログを TXT もしくは XLS ファイルに出力します。

「すべてクリア」：全てのログを消去します。

「詳細」： 個々のバックアッププランの詳細を表示します。

基本設定

プログラム画面右上にあるドロップダウンメニュー内に「設定」があります。



「設定」をクリックすると、次のような設定画面が表示されます。「言語」は日本語のみ選択できます。また、「バックアップの保存先」もここで設定します。



その他の項目については次の通りです：「アップデートを自動的に確認」のチェックを解除すると、アップデート情報が通知されません。

本製品の動作情報を提供して製品の改良にご協力いただける場合は「ユーザーエクスペリエンス向上プログラムに参加」にチェックを入れてください。

「バックアップ時に通知トレイを表示」のチェックを解除すると、システムトレイに通知が表示されなくなります。

サポート

本マニュアルに記載のない項目でも[ナレッジベース](#)に記載がある場合があります。また、EaseUS Todo Backup のよくあるトピックや詳細情報も利用可能です。（英語）

エラーや不具合を発見した場合、「レポートを作成」して送信してください。



免責

本マニュアルは 2016 年 9 月 1 日現在

http://www.easeus.com/support/download/docs/pdf/Todo-Backup_V9.2_Home_online_help_For-Home-and-Free.pdf にて公開されている英文マニュアルを編集・和訳したものです。英文マニュアルに変更が生じた場合、および英文と和訳の間で記載内容や解釈に差異がある場合は原則として英文記載の内容または解釈が優先されます。また、マニュアルの記載内容と実際のソフトの状態に差異がある場合は、ソフトの状態を優先します。